タイにおけるリモートセンシングの現状

MRS. NOPAKHUN SOMSIN (タイ)

王立灌漑局

1. タイのリモートセンシングの現状

現在、タイでは衛星の地上受信システムが建設中であり、完成までにはまだ1年以上かかることでしょう。こうしたことから、リモートセンシングは様々なテーマへ応用され、進展していくことでしょう。しかしながら、今のところタイでは、リモートセンシングはそれ程広く利用されてはいません。このことは、次に示すような理由からです。

- 1) ミニコン、マイコン等の機器の不足
- 2) 衛星の地上受信システムがないこと
- 3) リモートセンシングを学んだ人が多くいないこと
- 4) 研究費への援助のないこと

タイでは、研究方法にフォールスカラー画像やジアゾクロム画像を用いた写真判読が依然として行われています。

2. 水文学への応用

水文学の分野では、LANDSAT MSS データが実用できる唯一の道具であります。例えば洪水地域の図化があります。

1978年10月のタイ北東部の千川の洪水地域解析に利用されました。この千川はメコン川に流れ込んでいる川で、9月30日から10月10日の間、この川辺地域は洪水に見舞われました。この場合、費用がかさむため空中写真や現地調査で洪水痕跡を見つけることは不可能でありました。

そのため、1978年10月30日のLANDSAT MSS 画

像が洪水の境界の発見に使用されました。この画像は洪水後約20日のものであります。洪水は減退した後も眼による判読により洪水地域がわかりました。このことは、洪水地域の土が十分に湿っていたことに関係しています。もしM-DASシステムとImage-100がこの分野に利用されたなら、より正確な結果を導き出すことができたでしょう。

タイでは次に示すような水文学への応用が考えられます。

- 一貯水能力監視のための調査
- 一写真判読が行われていない貯水池、河川流域、デルタ地域での沈澱物・堆積物分布
- 一砂糖精製所、ビール醸造所等の多数の工場が立地しているチャオプラヤ川、メコン川の水質汚染
- 一灌漑の目的には次のような応用が考えられます。
- 一灌漑水供給への水質源の管理
- 一灌漑地域の農業生産の調査

3. 研修に参加した印象

日本でのリモートセンシングの研修に参加して、新しい技術と最新の知識を多く学ぶことができました。

今回の研修は、理論、実践の面でたいへん有益なものでしたが、その期間が短かすぎました。そのため、参加者は十分に機器の操作を理解できたとは思えません。また、同様な理由から講義も十分なものであるとはいえないでしょう。

この時間の制約のため疲れましたが、この点を除けば、他の点については言うことはありません。

(訳：河合康之)